



日本遺産ガイドマニュアル
JAPAN HERITAGE GUIDE MANUAL



女性とともに今に息づく

によ　　にん　　こう　　や

女人高野

時を超えて、時に合わせて見守り続ける
癒しの聖地



〈発行〉女人高野日本遺産協議会
(宇陀市・河内長野市・九度山町・高野町)
令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域
文化財総合活用推進事業)を活用して作成しました。

このガイドブックは令和4年2月現在の情報を掲載しています。



女人高野 日本遺産 検索



はじめに

本ガイドマニュアルは、女人高野についてガイドをされる方が、日本遺産「女人高野」のストーリーや構成文化財などをより一層理解していただけるよう作成しました。

地元で女人高野の構成文化財の案内をされる際に、他のまちの女人高野の寺院や構成文化財の魅力もあわせて発信していただければ幸いです。

それぞれのまちで訪れる人が増え、多くの人に女人高野の魅力に触れていただけることを願っております。



目次

- | | | |
|------------------------|-------------------|------------------|
| P 5 女人高野STORY ストーリー概要 | P 13 奈良県 宇陀市 | P 27 和歌山県 九度山町 |
| P 6 STORY1 女人高野 | P 14 ① 室生寺の境内 | P 28 ⑨ 慈尊院の境内 |
| P 7 STORY2 『名所図会』と女性の旅 | P 15 ② 室生寺の建造物群 | P 29 ⑩ 慈尊院の建造物群 |
| P 8 STORY3 見守り続ける癒しの聖地 | P 16 ③ 室生寺の彫刻群 | P 30 ⑪ 慈尊院の彫刻群 |
| P 9 女人高野 4つのお寺 | P 17 ⑯ 佛隆寺 | P 31 ⑫ 横尾道 |
| P 11 4つの都市と構成文化財 | P 17 ⑯ 大野寺 | P 31 ⑬ 町石道 |
| | P 18 ⑯ 安産寺 | P 32 ⑯ 丹生官省符神社 |
| | | P 32 ⑯ 舟戸河湊跡 |
| | | P 33 女人高野の登場人物たち |
| | | |
| P 19 大阪府 河内長野市 | | |
| P 20 ④ 天野山 金剛寺の境内 | P 35 和歌山県 高野町 | |
| P 21 ⑤ 金剛寺の建造物群 | P 36 ⑭ 不動坂口女人堂 | |
| P 23 ⑥ 金剛寺の彫刻群 | P 37 ⑯ 女人道 | |
| P 24 ⑦ 天野街道 | P 38 ⑮ お竹地蔵尊 | |
| P 24 ⑧ 高野街道 | P 38 ⑯ 子繼地蔵(粉撞地蔵) | |
| P 25 ⑯ 金剛寺の鎮守社 | P 39 足を延ばして高野山観光へ | |
| P 25 ⑯ 金剛寺の子院群 | P 43 参考図書 | |
| P 26 ⑯ 正御影供 | P 45 各自治体の観光案内所 | |

日本遺産の主旨と目的

(文化庁日本遺産ポータルサイトより)

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化しこれらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていくことが必要です。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援します。

日本遺産ポータルサイト

<http://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>



JAPAN HERITAGE
日本遺産





女性とともに今に息づく 女人高野

～時を超えて、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～

» ストーリー概要

高野山は、近代まで「女人結界」が定められ、山内への女性たちの参拝は叶わなかった。
そんな時代にあっても女性たちの、身内の冥福を祈る声、
明日の安らぎを願う声を聴いていた、「女人高野」と呼ばれるお寺があった。
優美な曲線を描くお堂の屋根、静かに願いを聽いている柔軟なお顔の仏像、
四季の移ろいを映す周囲の樹々、
これらが調和した空間を『名所図会』は見事に実写し、表現した。
そこに描かれた「女人高野」は時を超え、
時に合わせて女性とともに今に息づき、訪れる女性たちを癒し続けている。

※ストーリーについては、認定時のものを一部リライトしています。



女人高野

「高野山には、女は入れへんがのう、この慈尊院までは上がるんやしてよし。そやよってに、ここは女人高野と云うんやして。花は知ってたわの」。これは有吉佐和子^{※1}の名著、『紀ノ川』の冒頭部分である。

弘法大師空海^{※2}が弘仁7年(816)に嵯峨天皇^{※3}から高野山を下賜され、高野山は開創当初から「女人結界」が定められたと伝えられている。これは修行者の墮落を防ぐための不邪淫戒^{※4}という戒めによつて、修行者を律するものであった。後の思想である、女性と穢れを結びつけ、聖域への立ち入りを禁じた「女人禁制」とは異なっていた。

この女人結界が解かれるのは、近代化を進める明治5年(1872)の太政官布告^{※5}第98号「神社仏閣女人結界ノ場所ヲ廢シ登山參詣隨意トス」によってであるが、高野山は山規^{※6}があったため、更に遅れて明治後半になってからである。開創から千有余年の間、「高野山には、女は入れへんがのう」という時代が続いたが、そんな時代にあっても空海と縁を結び、祈りを届けたいという女性たちの願いを聴いていた、「女人高野」と呼ばれる4つの寺があった。

六一山室生寺は徳川5代將軍綱吉の母、桂昌院^{※7}の寄進によって堂塔を修理したことから女人高野と称するようになった。天野山金剛寺は後白河院^{※8}の妹、八条女院^{※9}の祈願所となったこと、そして八条女院に仕えていた2人の姉妹^{※10}が出家し寺主になったことから女人高野と呼ばれた。

万年山慈尊院は空海の母、玉依御前^{※11}が滞在し、没後本尊としていた弥勒菩薩^{※12}に化身したという信仰から女人高野と呼ばれている。慈尊院からは町石道^{※13}が高野山まで通じ、1町(約109m)ごとに町石が建てられている。また、京大坂道の最後の不動坂を登りきったところに、不動坂口女人堂^{※14}が建っている。ここから先の高野山内には女性が入ることはできなかった。



紀の川を見下ろす町石道

※1 有吉佐和子…1931-1984 小説家。代表作『紀ノ川』、『恍惚の人』

※2 弘法大師空海…33ページ参照

※3 嵯峨天皇…786-842 第52代天皇(33ページ参照)

※4 不邪淫戒…男女間の淫らな行為を禁止する戒

※5 太政官布告…明治時代初期に最高官庁として設置された太政官により公布された法令の形式

※6 山規…高野山において、守らなければならない取り決め。女性の居住が認められたのは明治38年(1905)から

※7 桂昌院…1627-1705 徳川3代將軍家光の側室で5代將軍綱吉の生母(33ページ参照)

※8 後白河院…1127-1192 第77代天皇。鳥羽上皇の第4皇子として生まれる。

※9 八条女院…1137-1211 瞳子内親王。初めて后位を経ずに女院となり、八条院と号した(33ページ参照)

※10 八条院に仕えていた2人の姉妹…淨覺尼とその妹覺阿尼

※11 玉依御前…空海(弘法大師)の母親(34ページ参照)

※12 弥勒菩薩…慈尊院の弥勒仏(菩薩)は弥勒堂に安置され、21年に1度開帳される。前回は2015年

※13 町石道…31ページ参照

※14 不動坂口女人堂…36ページ参照

STORY 2

『名所図会』と女性の旅

この「女人高野」と呼ばれた寺院は、江戸時代に諸国の社寺、景勝地など実景描写の挿絵を入れ、解説した『名所図会』に描かれていた。『名所図会』は徳川幕藩体制の安定、経済活動の進展とともに庶民も高野詣^{※1}、お伊勢参り^{※2}、西国巡礼^{※3}などお参りを兼ねて旅に出るという、近世において庶民の生活にも余裕が出てきた中で刊行された江戸時代の旅行ガイドブックである。

この頃の旅は、道や交通手段の発達した今日と違い、数か月に及ぶこともあった。特に女性にとっては関所における女改め^{※4}は厳しく、また高野山への参詣も辛い道のりであった。

高野山への参詣道として七つの道があり、それぞれの道を登りきった女人結界には女性のための籠り堂^{※5}として女人堂が建てられた。山内に入れない女性たちはここで手を合わせて祈り、夜を明かした。この七つのお堂は一つの道でつながっており、女人道^{※6}と呼ばれた。女人道は、女人堂から女人堂へと結ぶ壇上伽藍^{※7}を中心に蓮の花びらにたとえられた八葉蓮華^{※8}の峰々の尾根伝いの道である。女人道という名からは想像しがたい険しい道である。女性たちはお堂だけではなく、この険しい道を歩きながら樹間から垣間見える壇上伽藍や奥之院^{※9}に手を合わせていた。この女人堂での参拝については、九州からの夫婦がたどった高野詣の旅日記が現在に残り、それにより女人堂の間取りや参拝者が全国各地からであったことが分かっている。女人堂の一つである不動坂口女人堂の前に地蔵尊（通称「お竹地蔵尊」）^{※10}が造立されている。これは、江戸の元飯田町の「横山たけ」という一人の女性が、亡き夫の供養のため高野山に参詣し、女人堂に参籠していたときに夢に地蔵が現れたことから延享2年（1745）に造立したものである。

女性たちは、女人堂に籠り、夜通し祈った後に、眼下に悠々と流れる紀の川を見下ろしながら山を下った。峠を越え、山を登る厳しい参詣が出来ない女性たちは高野山の麓にある慈尊院、高野街道近くの金剛寺でお参りをした。また、お伊勢参りと兼ねて伊勢本街道^{※11}近くの室生寺に参詣していた。



紀伊国名所図会(女人堂と女人結界)

- ※1 高野詣で…空海が開いた高野山に参詣すること
- ※2 お伊勢参り…江戸時代に起こった伊勢神宮への参詣
- ※3 西国巡礼…西国三十三所の観音靈場を巡礼すること
- ※4 女改め…女性の身元などを取り調べること
- ※5 篠り堂…修行者や参詔者などが籠って祈願するお堂
- ※6 女人道…37ページ参照
- ※7 壇上伽藍…41ページ参照
- ※8 八葉蓮華…花弁が8葉ある蓮華のこと
- ※9 奥之院…40ページ参照
- ※10 地蔵尊(通称「お竹地蔵尊」)…38ページ参照
- ※11 伊勢本街道…伊勢神宮への参詔道として整備された街道

STORY 3

見守り続ける癒しの聖地

身内の冥福を祈り、明日の安らぎを願う声を聴き届けていた女人高野は、今も安産、授乳、育児や乳がん平癒などを願って多くの女性たちが参詔している。

お寺では乳がん撲滅を願い、ピンクリボンデー^{※1}に読経とともに多宝塔をピンクに染め上げ、文化財を活かした啓発活動をしている。また、世界遺産にもなった、高野山の麓から奥之院に続く町石道、女人堂と女人堂をつなぐ女人道は、自然に恵まれた緑豊かな道である。近年では多くの訪日外国人旅行者が文化財とともに、自然の癒しを愉^{※2}んでいる。これらの遺産は、時に合わせて女性とともに今に息づいているのである。

優美な曲線を描くお堂の屋根、静かに願いを聴いている柔軟なお顔の仏像、四季の移ろいを映す周囲の樹々、これらが調和した空間を見事に実写した『名所図会』にあらわされる女人高野は、今も姿、形が変わることなく境内林に囲まれて佇^{※3}んでいる。また、地域住民によって祭礼が行われ、多くの女性たちの願いが聴かれている。これからも訪れる女性たちを心安らかに見守り、癒し続けて止むことはない。

- ※1 ピンクリボンデー…ピンクリボンは乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーンまたはシンボル。毎年10月1日にはピンクリボンデーとして、清水寺や東京タワーなど日本各地の建物がピンクにライトアップされ、ピンクリボン運動の認知度向上の活動が実施される。慈尊院や金剛寺でも10月に多宝塔のライトアップが行われる。



ピンクリボン啓発ライトアップ
(金剛寺多宝塔)

見守り癒し続ける仏像
(室生寺十一面觀音菩薩立像)

女人高野 4つのお寺

明治時代後半、高野山で「女人禁制」が解かれるまで、弘法大師空海と縁を結び、祈りを届けたいという女性たちの願いを聴いていた「女人高野」と呼ばれるお寺(室生寺・金剛寺・慈尊院)やお堂(不動坂口女人堂)がありました。

奈良県
宇陀市

べんいちさん むろうじ 穴一山 室生寺



奈良時代末、東宮(のちの桓武天皇)の病氣平癒を願った興福寺の僧・賢憬(賢環)が創建しました。その後、一時衰退しましたが、江戸時代の元禄年間に5代将軍徳川綱吉の生母、桂昌院の庇護を受けて再興されました。この頃から、同じ真言宗で女人禁制だった高野山金剛峯寺に対し、室生寺は女人の参詣を受け入れたため、「女人高野」と呼ばれ、女性の信仰を集めました。また、屋外に建つ古塔として日本最小の五重塔(国宝・高さ16m)は「女人高野」にふさわしい珠玉の美しさです。

大阪府
河内長野市

あまのさん こんごうじ 天野山 金剛寺



寺伝によると、奈良時代に行基によって創建され、平安時代には弘法大師空海が修行したと伝えられています。平安時代末頃には荒廃しますが、高野山で修行した僧・阿觀が朝廷や武家の力を借りながら伽藍を整え、寺領を増やしていました。この阿觀に鳥羽上皇の娘、八条女院は深く帰依し、金剛寺は八条女院の祈願所になりました。この八条女院に仕えていた淨覺、覚阿姉妹が阿觀の後を継ぎ、第二代、三代の院主となったことが「女人高野」と呼ばれる一因と考えられます。

和歌山県
九度山町

まんねんさん じそんいん 万年山 慈尊院



弘仁7年(816)弘法大師空海が高野山を開創し、高野山参詣の要所にあたるこの地に表玄関として寺の庶務を司る政所を設置しました。その後、空海の母が四国より訪ねてこられましたが、当時の高野山は女人禁制であったので、この慈尊院で暮らし弥勒菩薩を信仰されました。空海の母の没後、伽藍を整備し弥勒菩薩を祀ったので、以後女人禁制の高野山に対し、「女人高野」とも呼ばれるようになり、子授け、安産、授乳などを願う多くの女性たちが参拝しています。

和歌山県
高野町

ふどうざかぐちにょにんどう 不動坂口女人堂



かつて7つあった女人堂の内、唯一現存する不動坂口女人堂は、高野参詣道京大坂道不動坂の終点に位置します。高野山は弘法大師空海によって開かれた真言密教の根本道場であり、修行に専念できるよう「女人禁制」とっていました。そのため、明治時代後半に「女人禁制」が解除されるまでは、女性の参籠所・参拝所として利用され、お大師さま(空海)に導かれた女性や高野山への思いを募らせた女性が、このお堂を訪れました。

4つの都市と構成文化財

大阪府
河内長野市



④ 天野山 金剛寺の境内 P.20



⑤ 金剛寺の建造物群 P.21



⑥ 金剛寺の彫刻群 P.23



⑦ 天野街道 P.24



⑧ 高野街道 P.24



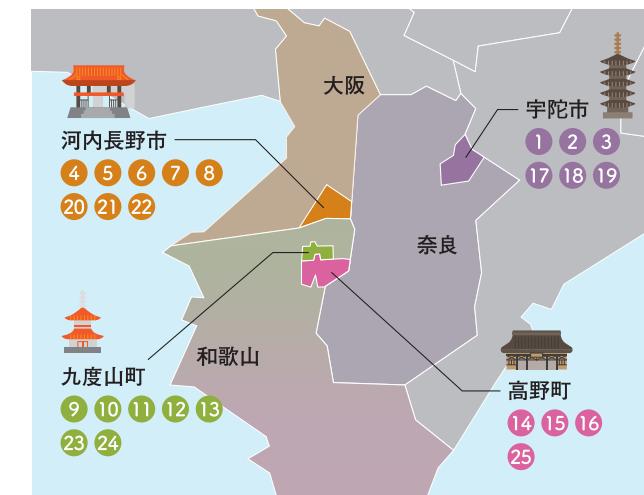
⑩ 金剛寺の鎮守社 P.25



㉑ 金剛寺の子院群 P.25



㉒ 正御影供 P.26



奈良県
宇陀市



① 室生寺の境内 P.14



② 室生寺の建造物群 P.15



③ 室生寺の彫刻群 P.16



⑭ 佛隆寺 P.17



⑮ 大野寺 P.17



⑯ 安産寺 P.18

和歌山県
九度山町



⑨ 慈尊院の境内 P.28



⑩ 慈尊院の建造物群 P.29



⑪ 慈尊院の彫刻群 P.30



⑫ 横尾道 P.31



⑬ 町石道 P.31



㉓ 丹生官省符神社 P.32



㉔ 舟戸河湊跡 P.32

和歌山県
高野町



⑭ 不動坂口女人堂 P.36



㉕ お竹地蔵尊 P.38



㉖ 女人道 P.37



㉗ 子継地蔵 (粉撞地蔵) P.38

奈良県 宇陀市

5km

1 室生寺の境内

住 所
電 話
ア ク セ ス
入 山 料
拝 観 時 間

奈良県宇陀市室生78
0745-93-2003
近鉄大阪線「室生口大野」駅下車、奈良交通バス「室生寺前」停留所下車、徒歩5分
大人600円・子供400円(宝物殿は別途400円(一律))
8:30~17:00(4月1日~11月30日)、9:00~16:00(12月1日~3月31日)

『べんいちつさん山縁起』によれば、へい山室生寺は飛鳥時代に天武天皇の勅命をもって修験道の祖、役小角えんのおづなが初めて建てたと伝えられています。

また『べんいちつさん年分度者奏状』には、桓武天皇が皇太子の時に病に臥し、室生山中での延寿祈祷により快復したのが縁となり、平安初期の延暦年間(782~806)、天皇の勅命で興福寺の僧・賢愬けんけいが弟子の修圓しゅえんと共に建立したとあります。さらに承和2年(835)に記された弘法大師空海の『御遺告』には、「唐(中国)の師である惠果けいかから授かったインド伝來の如意宝珠によいほうじゆ、

室生山で修行した堅惠に託して善如龍王ぜんによりゅうおうの棲む精進峰しうりんほうに大切に納めた」とあります。

以来、真言宗の重要な道場のひとつとして篤い信仰を集めます。室生寺は室生山の山麓から中腹に広がる山岳寺院です。

写真)鎧坂

奈良県
宇陀市

1
室生寺の境内

14

2 室生寺の建造物群

山間の深い緑に囲まれ、奈良時代末期から江戸時代に建立された建造物が、景観の主要な構成要素となっています。室町時代以前の建造物は国指定文化財であり、本堂、金堂、五重塔は国宝です。なかでも五重塔は室生寺最古の建造物です。



▼金堂(国宝)

正面側面ともに五間の単層寄棟造で、屋根は柿葺。内陣は釈迦如来立像を中心に、向かって右に薬師如来立像、左に文殊菩薩立像の三尊が並びます。その手前には薬師如来の従者である十二神将立像のうち、子神、丑神、牛神、申神、戌神、亥神の六体が安置されています。



▶五重塔(国宝)

高さ16.1mで、屋外に建つ五重塔では国内最小。勾配がゆるく軒の出が深い檜皮葺の屋根は、朱塗りの柱や白壁と美しいコントラストを見せてくれます。平安時代初期の建立で、室生山中で最古の建物です。塔頂上の相輪は、九輪の上に通常は水煙を置くところを、水瓶を載せて風鐸が吊りめぐらされた天蓋を作っています。他には類のない珍しい塔です。平成10年(1998)の台風で大きな損傷を被りましたが、その後修復されました。

▼本堂(国宝)

室生寺の本尊、如意輪觀音菩薩像が安置されており、悉知院の扁額が掛けられています。真言密教の師資相承を認証する法儀である灌頂を行おうお堂でもあります。建立は延慶元年(1308)。五間四方の入母屋造で、内陣と外陣は板扉で仕切ることができます。和様と、宋の建築方式である大仏様の折衷建築様式です。



▲奥之院 御影堂(重要文化財)

五重塔からさらに奥へ進み、杉木立に囲まれた陥しく急な石段を上りきると、舞台造の位牌堂と弘法大師像を安置する御影堂があります。方三間の単相宝形造で厚板段葺。頂上に石造りの露盤が置かれています。他に例を見ない珍しい建物です。



▲弥勒堂(重要文化財)

三間四方の柿葺のお堂は、平安時代前期の法相宗の僧である修圓が興福寺に創建した伝法院を受け継いだものと伝えられます。須弥壇中央の厨子に安置された弥勒菩薩立像(重要文化財)は奈良時代末から平安時代初期の作。昭和28年(1953)の修理の際、須弥壇下と天井から宝篋印塔型の木製小塔である粉塔が多数、発見されました。

3 室生寺の彫刻群

室生寺には国宝、重要文化財をはじめ、平安時代を中心制作された多くの彫刻が伝えられています。

国宝の釈迦如来立像は、平安時代を代表する立像で、樅の一本造り。朱色の衣は流れのような独特の衣紋で、漣波式と呼ばれています。光背には華やかな彩色があり、七仏坐像と宝相華や唐草文が描かれています。



写真左)釈迦如来立像(国宝)
写真右)宝物殿に安置される地蔵菩薩立像(重要文化財)と十一面觀音菩薩立像(国宝)

国宝の十一面觀音菩薩立像は、美しい装いと女性的な優しさの漂う作風で、八重蓮華座と呼ばれる台座は平安前期の様式を伝えています。

重要文化財の地蔵菩薩立像は、桧の一材から大部分を彫り出し、背面に内割りを施した古式の作風。同じく重要文化財の十二神将立像は、薬師如來の従者で十二方位を護る武将像。鎌倉時代の特徴を示す代表作です。

17 ぶつりゅうじ 佛隆寺

住 所	奈良県宇陀市榛原赤埴1684
電 話	0745-82-2457(宇陀市観光課)
ア ク セ ス	近鉄大阪線「榛原」駅下車、奈良交通バス「高井」停留所下車、徒歩30分
入 山 料	200円
拝 観 時 間	9:00~17:00

室生寺の南門といわれ、室生寺から西南約4kmの摩尼山光明ヶ岳西南麓に位置する古刹。嘉祥3年(850)、弘法大師空海の弟子である堅恵が創建したといわれます。境内には本堂、鐘楼堂、求聞持堂、辻堂などが軒を並べ、本堂には本尊の十一面觀音菩薩立像、弘法大師像、堅恵坐像などを安置。辻堂には鎌倉時代末の地蔵石仏を祀ります。寺宝として、堅恵廟と伝わる石室(重要文化財)や、空海が唐から持ち帰ったと伝

えられる茶臼があります。桜の巨樹は奈良県下最大で最古といわれ、奈良県指定天然記念物です。



18 おおのでら 大野寺

住 所	奈良県宇陀市室生大野1680
電 話	0745-92-2220
ア ク セ ス	近鉄大阪線「室生口大野」駅下車、徒歩5分
入 山 料	300円
拝 観 時 間	8:00~17:00

大野寺は室生寺の西の大門といわれ、宇陀川の清流沿いに建つお寺。白鳳9年(681)に役小角^{えんのおづか}が開き、天長元年(824)に弘法大師空海が室生寺開創と同じくして建立したと伝えられています。

対岸の切り立った岸壁には弥勒仏が線刻されており、高さ13.8mと国内で最も高い磨崖仏です。

本堂に安置されている地蔵菩薩立像(重要文化財)は、後頭部から背面全体が炭化しています。



す。無実の娘を火あぶりの刑から救ったという伝説から「身代わり地蔵」の呼び名で親しまれています。春には境内の枝垂れ桜が見事に咲き誇る景勝地でもあります。



19 あんさんじ 安産寺

住 所	奈良県宇陀市室生三本松2932
電 話	090-3268-5859(事前予約)
ア ク セ ス	近鉄大阪線「三本松」駅下車、徒歩10分
入 山 料	無料
拝 観 時 間	9:00~16:00

宇陀川の清流に面した風光明媚な環境にある安産寺は、地元の三本松中村自治会が管理する寺院。ここに祀られる地蔵菩薩立像(重要文化財)は、言い伝えによれば、その昔、豪雨で宇陀川が増水した際に上流より流ってきたもの。その美しく優しい姿に見惚れた村人たちが、お堂を構えて安置したと伝わります。一説には、この地蔵菩薩像が室生寺金堂の本尊と酷似しているため、近世に室生寺から移されたとも。子安地蔵とも呼ばれ、安産・子授の信仰を集め、多くの女性が参拝しています。



MEMO

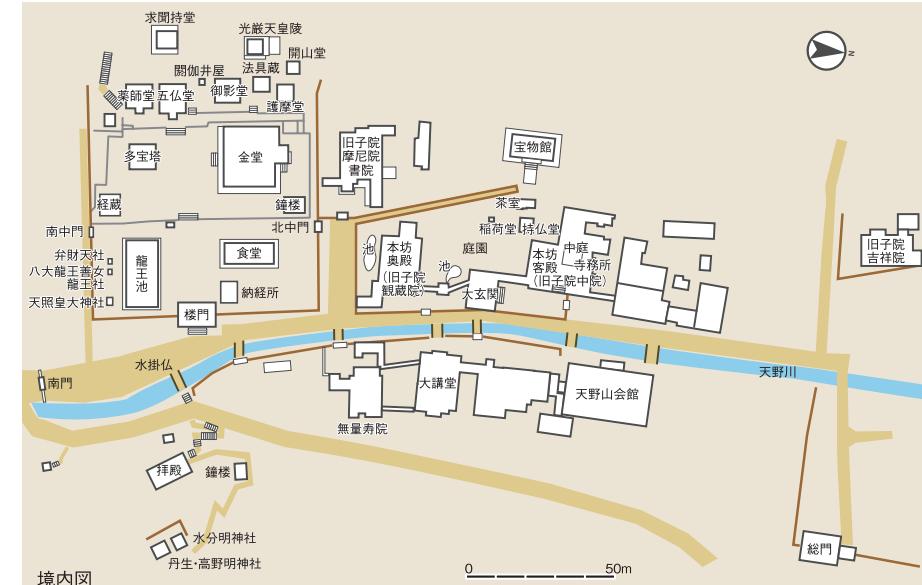
大阪府 河内長野市



4 天野山 金剛寺の境内

住 所
電 話
ア ク セ ス
入 山 料
拝 観 時 間

大阪府河内長野市天野町996
0721-52-2046
南海高野線・近鉄長野線「河内長野」駅下車、南海バス「天野山」停留所下車、徒歩すぐ
伽藍/大人200円、小学生100円・本坊/大人400円、小学生100円(大人のみ共通券(500円)あり)
9:00~16:30



金剛寺は、奈良時代に和泉国出身の行基が創建しました。一時は衰退しましたが、同じく和泉国出身の僧・阿觀によって平安時代末期に再興されています。阿觀は高野山で修行した後に金剛寺を整備し、今日まで続く行事である「正御影供」を行いました。平安時代末期、金剛寺の支援者となったのは後白河上皇の妹である「八条女院」です。本名は暁子といい、鳥羽上皇と美福門院の間に生まれました。彼女は両親から220か所以上の荘園を受け継ぎ、これらは「八条院領」と呼ばれます。そして、その経済的基盤により鳥羽上皇と美福門院の菩提を弔い、天皇家の皇女として政治的にも影響力を持つようにな

ります。金剛寺も彼女の祈願所となり皇族との結びつきを強めていきました。八条女院に仕える女房だった淨覺・覺阿姉妹が出家して阿觀に帰依し院主となったり、金剛寺は女人高野と呼ばれるようになりました。ちなみに多宝塔の下から発見された白磁の骨壺の主は、八条女院とも言われています。



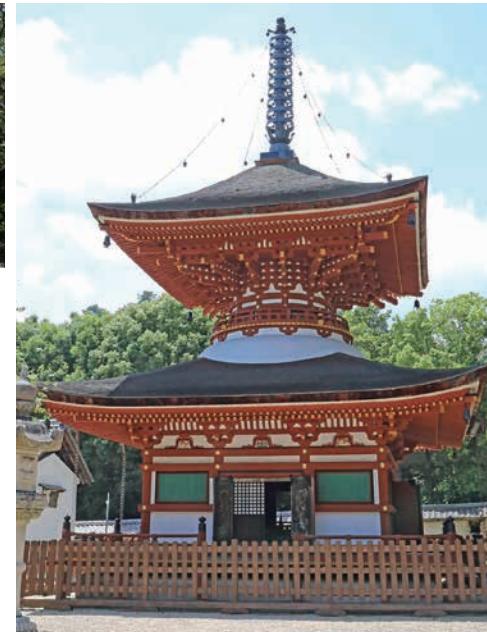
5 金剛寺の建造物群

金剛寺境内は高野街道に近く、隆盛期には天野谷に100程度の子院から構成されていました。南北朝時代には子院の半数が焼かれた戦乱の中でも、築垣に囲まれた金堂、多宝塔などの主要伽藍と鎮守社は護られました。主要伽藍を形成する金堂、御影



▶多宝塔(重要文化財)

金堂と同じ時期に建立。円形の塔身に四角形の柿葺屋根が乗り、上に相輪を建てて下層で蒙階をめぐらせています。秀頼の修理で解体されていますが、旧材を使用し当初の様式が残され、我が国最古の多宝塔の形式を残します。堂内には重要文化財の大日如来坐像が安置されていましたが現在は宝物館で見ることができます。



堂、多宝塔、五仏堂、薬師堂と鎮守社は平安時代末期の12世紀に建立されたものが多く、築地塀も含め歴史的建造物全てが重要文化財であり、景観の主要な構成要素となっています。

▼金堂(重要文化財)

入母屋造、本瓦葺。前身は承安年間(1171~1175)頃に建立されたもので、天福2年(1234)には五間堂から七間堂に拡張された可能性があります。現在の建物は鎌倉時代や南北朝時代に何度か修理され、さらに秀頼によって修復されました。



▲五仏堂(重要文化財)

東面し、三間四方、宝形造、檜皮葺の建物です。秀頼修理の際に再建されており、前身の建物は治承4年(1180)には存在していたと思われます。堂内には重要文化財の五智如来坐像が安置されています。



▲御影堂(重要文化財)

南面し四方、宝形造、檜皮葺の建物です。承安2年(1172)の建立で、南北朝時代に向唐破風造の風流な觀月亭が付け加えられています。堂内には重要文化財の弘法大師空海の御影が祀られています。

6 金剛寺の彫刻群



6 金剛寺の彫刻群

金堂に安置されている本尊大日如来坐像、五仏堂の五智如来坐像、多宝塔の大日如来坐像、鎮守社の神像などが、金剛寺創建当初に造立されたものです。鎌倉時代に入り、本尊の脇侍である降三世明王坐像、不動明王坐像などが造立され、本尊と合わせて三体を一組として、金堂には密教の図像でも特殊な形式と考えられる「尊勝曼荼羅」の世界が彫刻で立体的に表現されています。

また薬師堂には、鎌倉時代の薬師如来立像と室町時代の十二神将像が安置されています。

制作年代がわかっているものでは、不動明王坐像が天福2年(1234)、摩尼院の十一面觀音立像が文永6年(1269)、樓門の二天像が弘安2年(1279)に造立されています。



写真上)向かって左から降三世明王坐像・大日如来坐像・不動明王坐像(国宝三尊) 写真中左)増長天立像(重要文化財) 写真中右)持国天立像(重要文化財) 写真下)五智如来坐像 五軀(重要文化財)

7 天野街道



天野街道は河内国と和泉国の国境をなぞった後、天野谷の西側を南下します。現在では大阪狭山市内で西高野街道から分岐し、小山田・下里・天野という牧歌的な農村風景を残す地域を通り、金剛寺へ向かう祈りの道です。天野街道は金剛寺総門前に至ると、紫雲山葛井寺(藤井寺市)と槇尾山施福寺(和泉市)を結ぶ巡礼街道と合流。さらに南下すると藏王峠を越えて紀ノ川筋に出ます。川を渡れば丹生都比売神社のある天野(和歌山県)を経て、高野山へと続きます。

7 天野街道

8 高野街道

8 高野街道

平安時代に弘法大師空海が創建した高野山と京を結ぶ道が、のちの高野街道へとつながっていったとされます。ルートは大きく東高野街道と西高野街道、他にも中高野街道や下高野街道があります。東高野街道は現在の京都府八幡市から大阪の生駒山麓を通り、河内長野駅前付近で西高野街道と合流。西高野街道は京都から淀川を船で下り堺市・大阪狭山市を経て中高野街道と合流。そして中高野街道は大阪市平野区から松原市、堺市、大阪狭山市を通って河内長野市に入ります。下高野街道は四天王寺から南下し、大阪狭山市で西高野街道



20 金剛寺の鎮守社

金剛寺中心伽藍の東にある丘陵に、鎮守社である丹生・高野明神社本殿と水分明神社本殿が鎮座します。丹生・高野明神社は三間社流造、檜皮葺で千鳥・軒唐破風がついています。水分明神社は一間社春日造。両社とも秀頼の修理の際に再建されました。

中腹の拝殿は入母屋造、妻入の建物で同時期に建立されたと思われます。この拝殿には秀頼から寄進された狩野山楽筆のかのうさんらくの



三十六歌仙絵馬が掲げられていました。また本殿への途中にある鐘楼は一間四方、切妻造、本瓦葺、袴腰付の建物です。これらは令和元年(2019)に重要文化財に指定されました。

21 金剛寺の子院群

金剛寺にはかつて100近い子院が軒を連ねていました。旧子院は今も中心伽藍に連なり、また東側に流れる天野川に面して立ち並んでいます。なかでも摩尼院は、南北朝

時代に南朝の後村上天皇がひととき行在所とされていました。中心建築の書院(客殿)は秀頼が伽藍を修理した頃に再建されたもので、茅葺の入母屋造、妻入の建築です。この書院は昭和40年(1965)に重要文化財に



指定され、その後、築地塀、表門も令和元年(2019)に重要文化財に指定されています。他にも観藏院、中院、吉祥院など旧子院の建物があります。

22 正御影供

弘法大師空海の御入定日(命日)である4月21日(旧暦3月21日)に行われる法事が正御影供。承安2年(1172)に阿觀が金剛寺を再興し、御影堂に大師の御影を安置したことから始まったとされます。当時は法螺貝を吹く山伏を先頭に僧侶、檀家、稚児の行列が本坊から伽藍へと進みます。法事の後半には、百味飲食といふ山や海、里の幸が供物として御影堂に運ばれ、大師に献上する儀式が執り行われます。百

味飲食は正御影供の法事の中における供物で、もと領民であったという天野周辺の人々が色々なものを作ります。



MEMO

和歌山県 九度山町

9 慈尊院の境内

住 所
電 話
ア ク セ ス
入 山 料
拝 観 時 間

和歌山県伊都郡九度山町慈尊院832
0736-54-2214
南海高野線「九度山」駅下車、徒歩約20分
無料
9:00~17:00

弘仁7年(816)、弘法大師空海が高野山参詣の要所にあたる地に、表玄関として創建されたのが慈尊院の始まりです。高野山の寺務を司る政所を置き、高野山参詣者の宿泊や冬期の避寒修行の場とされました。高野山をひと目みたいとの思いで空海の母が四国のかつて善通寺より息子を訪ねたものの、その時代の高野山は七里四方を女人禁制としていたため入れず、山麓にあるこの寺院へ迎えられました。翌年、母は83歳で逝去されました。空海は母のために弥勒堂を建て、弥勒仏坐像を安置。慈尊とは弥勒菩薩の別名で、これより慈尊院と呼ばれるようになりました。

この物語は『紀伊国名所図会』に「母公は弥勒慈尊の垂迹とか聞こゆ。それより慈尊院を通称とす」と紹介されています。慈尊院はかつては、紀の川畔に建てられていましたが天文9年(1540)の洪水により、現在の小高い地に移転されたと伝えられています。

和歌山県 九度山町

9 慈尊院の境内

28

10 慈尊院の建造物群

高野山の麓の樹々に囲まれ、堂宇と共に厚く築かれた築地塀が景観の主要な構成要素となっています。承安3年(1173)に再建された弥勒堂は重要文化財であり、和歌山県内最古の建造物。平成16年(2004)、「紀伊山地の靈場と参詣道」が世界文化遺産に登録され、慈尊院も世界遺産になりました。

▼多宝塔(県指定文化財)

弘法大師空海の創建で、大日如来を本尊としているため大日塔とも呼ばれます。大型の三間多宝塔で下層は中央に四天柱を立て須弥壇を構えるという通常形式。平成24年(2012)の解体修理の際、室町時代に三重塔として初重までできていたものの中断し、寛永元年(1624)に構造を大きく変更して現在の多宝塔を建てたことが判明しました。室町時代の三重塔を江戸時代に多宝塔に造り変えたという経緯が示すように、2つの時代の様式を持つ貴重な遺構です。



▲慈尊院北門・築地塀(県指定文化財)

境内の北正面に建つ北門は、左右の築地塀につながっています。門は大型の一間四脚門、切妻造、本瓦葺の建物で、構造と様式からみて室町時代後期の建築。境内の正面を飾るのにふさわしい門です。築地塀は正面と東西の三方に築かれ、延長は約116m、高さは最大2.9mもある非常に大規模なもので、本瓦を葺いています。小さな砂利を混ぜた粘土を何十層にも突き固めて築いた珍しい塀で、これも室町時代の建築です。

▼弥勒堂(重要文化財)

弥勒堂は弘法大師空海の母が過ごされたところで、没後に弥勒仏坐像が安置された廟。三間四方、宝形造、檜皮葺で建ちが低く、廟所の雰囲気をよく示す建物です。内部の一間四方は平安時代後期に再建されたものが残され、外回りは室町時代中期のもの。県内で唯一、平安時代に遡る貴重な建造物です。



▶下乗石(町指定文化財)

表門(北門)の左側に建つ板碑。記録により保延2年(1136)に刻まれていましたが、今は半分ほど折損しています。県下最古の金石文であろうといわれています。もとは慈尊院交差点北側の下乗石建立跡に建てられ、かつては南門がここにあったことを伝えています。皇室や貴族はこの場所で籠を降り、高野山参詣の出発点としました。



▲五輪石塔2基(町指定文化財)

弥勒堂西側の玉垣内にある鎌倉時代の大型石塔です。



◀高野山案内犬ゴンの碑

ある日、ふらりとどこからか慈尊院に現れた野良犬、ゴン。いつの間にか慈尊院から高野山まで参詣者を道案内し、弘法大師空海の母の命日と同じ日に息を引き取りました。多くの人に愛された不思議な案内犬ゴンを偲んで、平成14年(2002)に石碑が建てされました。『高野山の案内犬ゴン』という本も平成15年(2003)に出版されています。

11 慈尊院の彫刻群

木造弥勒仏坐像(国宝)は、高い蓮華座の上に右手を施無畏印、左手を与願印にして座しています。堂々たる桧の一木造りによる彩色像で、寛平4年(892)に作られました。平安時代の代表的な彫像です。作者は会理仏師といわれ、同時代の他の作例とは異相の表現が見る者を圧倒。弥勒堂に安置されていますが、21年に一度の屋根替や特別な法要以外は開扉しません。また、弥勒仏坐像の正面厨子扉前に、県指定文化財の木造四天王立像が配されています。4軀と



写真左)木造四天王立像(写真は増長天) 写真右)木造弥勒仏坐像(国宝)

12 槇尾道

槇尾道は高野山と西国三十三所觀音靈場第四番札所槇尾寺(施福寺)をつなぐ参詣道。途中で金剛寺への分岐ルートも残され「女人高野」巡りの体験ルートとしても注目される遺産です。かつて高野山への入り口は7つあり、「高野七口」と呼ばれました。槇尾道は高野山と槇尾寺をつなぐ道でした。高野七口の1つである不動坂口から下山し、高野町の「神谷辻」で分かれ九度山町に入り、長坂・椎出・梨の木峠を経て槇尾山明神社へ。さらに九度山集落を抜けて丹生川を渡り慈尊院に至ります。



13 町石道

高野山への参詣道のうち、九度山町を通過するのは「町石道」、「京大坂道」、「黒河道」ですが、最も教義に則ったのがこの町石道です。慈尊院からかつらぎ町天野を経て高野山に至る約20kmのルートには、もとは木製の塔婆が立てられていました。木製塔婆は腐朽しやすかったため鎌倉時代に僧・覚穀が人々の寄進を集め大型の石造五輪卒塔婆群を建立し、今も8割ほどはその当時のものが残っています。また、慈尊院から壇上伽藍の根本大塔



高野七口の成立は大師信仰が広く興隆する平安時代後半ですが、槇尾道は平安時代前期に弘法大師空海が歩いて開いた修行の道です。

23 丹生官省符神社

住 所	和歌山県伊都郡九度山町慈尊院835
電 話	0736-54-2754
ア ク セ ス	南海高野線「九度山」駅下車、徒歩約20分
拝 観 料 料	境内自由
拝 観 時 間	自由

弘法大師空海が慈尊院を開いた時、その鎮守として丹生明神と高野明神を祀ったことに始まるとされ、天文9年(1540)には現在の地に移築されたと伝えられています。社殿は向かって右から第一殿・第二殿・第三殿と横一列に配置され、それぞれ一間社春日造、檜皮葺の同形式。第一、第二殿は室町時代後期の永正14年(1517)、第三殿は天文10年(1541)の建築です。



極彩色で飾られた華麗な社殿で、境内には2本目の179町石が建てられています。

24 舟戸河湊跡

河湊とは、水上交通や漁業などの船舶が碇泊する交通の要地。かつて紀の川左岸の高い岩盤際に造られた湊で、大消費地である高野山への資材を陸揚げした重要な交通関連施設として賑わっていました。舟戸河湊は堂塔の建設、運営にも利用されたと考えられています。断崖には、紀州の名石である青石(緑泥片岩)が露頭しており、その上に江戸時代後期から近代に至るまでの優れた町並みが続いています。



女人高野の登場人物たち

女人高野の物語には、ストーリーを彩る様々な歴史上の人々が登場します。中心となった弘法大師空海をはじめ、主な人物を紹介します。



弘法大師坐像(金剛峯寺蔵)

弘法大師空海

宝龜5年(774)6月15日、讃岐国多度郡屏風ヶ浦(現在の香川県善通寺市)に誕生、幼名は真魚。
延暦12年(793)に出家したとされ、奈良の大安寺で学んだ後、山岳修行を行い、私費留学生として遣唐使に参加、唐の都長安の青龍寺において惠果阿闍梨から真言密教を授かる。
大同元年(806)帰国、弘仁7年(816)嵯峨天皇より賜った高野山を、真言密教の根本道場として開創、布教や教育に努める。

承和2年(835)3月21日、高野山奥之院御廟の岩窟にて、永遠の
禅定に入られ、今も「世界平和」や「人の幸せ」を祈る修行を行わ
れているといわれている。
延喜21年(921)醍醐天皇より「弘法大師」の諡号を賜った。親
愛の念を込め、空海、お大師様、お大師さん、大師などとも呼ばれる。



高野山奥之院

嵯峨天皇

平安時代初期の天皇。第52代にあたり、桓武天皇の皇子である。幼い頃から天子の器量があるとして桓武天皇に寵愛され、大同4年(809)に即位した。その後、藤原葉子らの介入によって平城宮に移った平城上皇と対立するが(いわゆる葉子の変)、兵を発して上皇方を制圧した。15年の治世のうち、弘仁14年(823)異母弟の淳和天皇に譲位したが、承和9年(842)に没するまで上皇として朝廷を治め、古代史上まれな安定した政治期を出現させた。仏教にも造詣が深く、弘法大師空海とも書物などを通じて深い交流を結んでいた。

桂昌院

江戸幕府5代将軍、徳川綱吉の生母。京都の八百屋仁右衛門の次女として生まれ、二条家の家臣、丹後の宮津藩主庄宗利の養女となつた。そのち三代将軍家光夫人に従って大奥に入り、家光の側室となった。正保3年(1646)に綱吉を生み、阿玉の方と呼ばれた。仏教信仰が厚く、綱吉の「生類憐れみの令」などに影響を与えたといわれる。家光の死後は仏門に入つて桂昌院と称した。江戸に護国寺、護持院を建立した。

八条院

平安末～鎌倉初期の女院。鳥羽上皇の皇女で後白河院の妹。名を暲子といい母は藤原長実の娘、美福門院。父である鳥羽上皇に寵愛され、その所領12カ所と安樂寿院領など多くを譲与された。鳥羽法皇崩御後に仏門に入り、仏事や社寺参詣に明け暮れる日々を送った。膨大な資産を継承したことで同時代人からは鳥羽院の正統を継ぐ嫡流の皇女として認識されている。220カ所以上に及ぶ荘園は八条院領と呼ばれ、中世皇室領の中核をなす一大荘園群であった。

玉依御前

弘法大師空海の母。讃岐国阿刀宿禰真足の娘で佐伯田公の妻。実家から近い熊手八幡宮に祈願して空海を懷妊したとされる。息子に会うために、女人禁制の高野山に登ったところ、雷鳴がとどろき火の雨が降ったと伝えられ、空海はやむを得ず山麓の慈尊院に住まわせ、没後は廟所にした。

賢憬

奈良末～平安初期の法相宗の学僧。賢璟とも書く。俗姓は荒田井氏で尾張国の出身。興福寺の宣教に師事してインドで成立した唯識法相を学ぶ一方で苦業練行を重ねた。山部親王(のちの桓武天皇)が怨霊と病気に悩まされたため宝生山中において淨行僧5人を請い延寿法が行われたが、賢憬はその一員として加えられ、山部親王と親密な関係を結んだといわれる。

行基

奈良時代の僧。河内国(大阪府)の生まれ。父母ともに中國系帰化人の氏族である。天武11年(682)に15歳で出家し、『瑜伽師地論』『成唯識論』などまざまな經典を学び、たちまち理解したという。やがて広く各地を周遊し、とどまつた所に道場が建てられ、その数49院に及んだといわれている。彼を慕つて従う者は1000名にも及び、行基菩薩と称された。

和歌山県 高野町

Map showing the location of Gokurakuji in Koyasan, with a red circle highlighting the temple's location. The map also shows the route from the station through the town to the temple, along with various paths and landmarks.

14 不動坂口女人堂

住 所
和歌山県伊都郡高野町高野山709
電話番号
0736-56-3508
ア ク セ ス
南海高野線「高野山」駅下車、南海りんかんバス「女人堂」下車、徒歩すぐ
拝 観 料
無料
拝 観 時 間
8:30~16:30

不動坂口女人堂は、桁行12m、梁間7m、入母屋造銅板葺で、柱の面取り等の内部構造から、建立年代は室町時代末期と推定されます。

『紀伊国名所図会』に「諸国より参詣の女人投宿する所なり」と紹介された中核をなすお堂です。高野山は女人禁制であったため、女性の結界所、または弘法大師空海を遥拝する場所、また宿泊所として建てられました。このような女性が祈りをささげたお堂は、高野七口といわれた高野山への入口にそれぞれありましたが、現存するのは不動坂口女人堂のみです。

写真上)女人結界のなごりの「高野山金剛峯寺」と刻まれた石柱が残る 写真下)向かって左から神變菩薩坐像(役行者)、大日如来坐像、辨財天坐像

和歌山県
高野町

14 不動坂口女人堂

36



明治5年(1872)に、全国寺社の女人禁制が廃止されたものの、高野山では独自の山規によって明治時代後半の日露戦争頃まで、女性が居住することはできませんでした。これは弘法大師空海の時代から高野山は修行の場であるからです。女性蔑視ではなく、僧侶らが修行に集中できるよう、女人禁制がとられていきました。高野山内に入れない女性たちは、高野山外周の尾根道を歩いて「ひと目、壇上伽藍や奥之院を見てみたい」「修行をしている我が子の姿を見たい」という願いを叶えていました。江戸時代後期の『高野山独案内』の絵図には、京大坂道の出入り口にある不動坂口の女人堂



写真上)谷上女人堂跡付近
写真下)紀伊国名所図会

から嶽弁天を経て大門へ至る道に「によん道」という記述があります。また、女人堂の石造地蔵尊の銘に「女人くまの道」とあることから、不動坂口女人堂から嶽弁天を登山し、大門から熊野に向かったのだろうと、想像できます。

16 にょにんみち 女人道

15 たけじぞうそん お竹地蔵尊

ア ク セ ス | 南海高野線「高野山」駅下車、南海りんかんバス「女人堂」下車、徒歩すぐ

不動坂口女人堂の向かいにある、高野山上で最大の鋳銅製の地蔵菩薩坐像。高さ約4.2m、切石積基壇を含めると約7.4mになります。台座の刻銘から、延享2年(1745)に横山たけにより造立されたことがわかっています。横山たけは、亡き夫の供養のために高野山に登山し、女人堂に参籠しました。そのときお地蔵さまが夢にあらわれたことから、地蔵尊の建立を思い立ったと伝えられています。



25 こつぎ 子継地蔵（粉撞地蔵）

女人道と黒河道とが合流する子継峠に建てられた峠の地蔵で、粉撞地蔵とも表記されます。九度山町久保地区(旧黒河村)では、かつてこの地蔵付近において、奥之院から出る線香の灰を野菜などと交換して持ち帰り、畑の肥料にしたとのいわれがあります。この地蔵はりょくでいへんがん 緑泥片岩でできた、子授けの信仰がある舟形光背の石仏で、高さ約84cm、幅約40cmですが、上部が一部欠損しているため、本来

は120cmほどの大きさだったと思われます。石仏には「香春峠 永正九壬申八月廿二日」とあることから、永正9年(1512)の造立だとわかります。





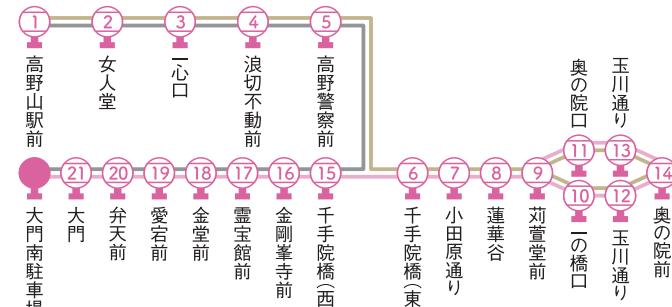
足を延ばして高野山観光へ

女人堂のその先には、女性たちが憧憬をつのらせた高野山があります。標高約900m、蓮華のよう八葉の峰々に囲まれた山上盆地に広がる高野山は、約1200年前に弘法大師空海の手で開かれた真言密教の聖地。空海は密教の道場を開くのにふさわしい場所として、都の喧騒から遠く離れた、雄大な紀伊山地の自然に抱かれた場所を選びました。山内には117もの寺院が点在し、「奥之院」と「壇上伽藍」を二大聖地として今も人々の信仰を集めています。1日では全てを回りきれない広大な高野山ですが、50以上の寺院に宿坊があり一般の参拝者も宿泊ができます。



バス路線

- 高野山駅から大門行き
- 高野山駅から奥の院行き
- 奥の院から大門行き



A 奥之院



アクセス

高野山駅前で奥の院前行バスに乗車し、「奥の院口」「一の橋口」で下車。御廟までは徒歩約40分。あるいは「奥の院前」下車で、御廟まで徒歩約20分

弘法大師空海は、高野山で国や社会の安泰を祈り、人々のために活躍できる人材も育てたいという思いを持っていました。そして世の中の迷える人々や苦しむ人を救うため永遠に祈り、深い瞑想に入りました。空海が御入定されている聖地が、奥之院。

高野山の信仰の中心地です。正式には一の橋から参拝し、御廟までの約2kmの参道を歩きます。道のりには、およそ20万基を超える諸大名をはじめとする墓石や供養塔、慰靈碑の数々が樹齢四百年におよぶ杉木立の中に並んでいます。

B 大門



高野山の入り口にそびえる総門。山火事や落雷等で焼失し、現在の建物は宝永2年(1705)に再建されたもの。五間三戸の二階二層門で高さは25.1m。左右に安置された金剛力士像は東大寺南門の仁王像に次ぐ、我が国二番目の巨像といわれ、江戸時代中期に活躍した仏師、運長と康意の作です。正面には「日々の影向を闇さずして、処々の遺跡を検知す」という聯が掲げられています。これは「お大師さまは毎日御廟から姿を現され、我々をお救いくださる」という意味です。

高野山駅前で大門南駐車場行バスに乗車し「大門」下車すぐ。大門南駐車場行バスがない時は奥の院前行バスで「千手院橋(東)」より徒歩約20分

C 金剛峯寺



アクセス

高野山駅前で大門南駐車場行バスに乗車し「金剛峯寺前」下車すぐ。大門南駐車場行バスがない時は奥の院前行バスで「千手院橋(東)」より徒歩約3分

高野山真言宗の総本山。金剛峯寺という名前は、弘法大師空海が『金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經』というお経より名付けられたと伝えられています。東西60m、南北約70mの主殿(本坊)をはじめとして、約5万坪の広大な境内には、様々な建造物と、国内最大級の石庭「蟠龍庭」があります。この庭は空海御入定1150年を記念して造園されたもの。白川砂の雲海に、空海誕生の地である四国のかこうがんの花崗岩を使って雌雄の龍を表現。秋は紅葉の名所として有名です。



D 壇上伽藍



アクセス

高野山駅前で大門南駐車場行バスに乗車し「金堂前」下車すぐ。大門南駐車場行バスがない時は奥の院前行バスで「千手院橋(東)」より徒歩約8分

根本大塔

壇上伽藍の中に建つ塔。高野山開創と共に着手され、弘法大師空海の御入定後の仁和3年(887)頃に完成したと伝えられます。空海はこの大塔を法界体性塔とも呼び、真言密教の根本道場におけるシンボルとして建立。多宝塔様式としては日本最初といわれます。現在の建物は昭和9年(1934)に再建されたもので、過去にも5回ほど再建されています。



金堂

平安時代半ばから高野山の総本堂として重要な役割を果たしてきたお堂。現在の建物は7度目の再建で昭和7年(1932)に完成しました。内部の壁画は岡倉天心のもとで活躍した木村武山の筆によるもの。本尊の阿閌如来(薬師如来、秘仏)は、高村光雲仏師の作です。



中門

金堂の正面手前にそびえる五間二階の楼門。壇上伽藍は天保14年(1843)の大火により、ほぼ焼失。先代の中門も失われましたが、高野山開創1200年を記念し170年ぶりに再建されました。持国天像・多聞天像・広目天像・增長天像の四天王が祀られています。



E 高野山靈宝館



アクセス

高野山駅前で大門南駐車場行バスに乗車し「靈宝館前」下車すぐ。大門南駐車場行バスがない時は奥の院前行バスで「千手院橋(東)」より徒歩約9分

F 德川家靈台

女人堂からバスで2区間。高野山の入り口にあり、徳川家康と秀忠をまつる東照宮です。寛永20年(1643)に3代将軍、家光によって建立されました。一重宝形造りの建物が2棟並び、向かって右が家康公靈屋、左が秀忠公靈屋。かつては境内の東端に三代将軍以下および御三家の尊牌堂がありましたが、明治21年(1888)に焼失しました。建物の内部は絢爛豪華な須弥壇と厨子を設け、蒔絵が施されています。



アクセス

高野山駅前から奥の院前行、もしくは大門南駐車行バスに乗車し「浪切不動前」下車すぐ

MEMO

参考図書

女人高野に関連した知識・情報をさらに詳しく学べる参考図書。
既に絶版の書籍もありますが、地域の図書館などにお問い合わせください。

室生寺

『土門拳の室生寺』

著者:土門拳 発行:クレヴィス(2019年)

戦前から昭和52年までに撮影したモノクロームの名作と、その撮影時のスナップ、室生寺愛あふれるエッセイを収録。



『室生寺』

著者:三好和義 発行:クレヴィス(2015年)

土門拳に憧れた写真家三好和義氏の自然と調和した室生寺と仏像の魅力を写し取った写真集。



『室生寺—山峡に秘められた歴史—』

著者:達日出典 発行:新人物往来社(1995年)

室生寺の歴史を掘り下げ、現代にいたるまでの変遷を解き明かすとともに、巻末において堂塔や境内等の見どころを紹介。



金剛寺

『観心寺 金剛寺(週刊古寺をゆく48)』

編集:大山邦興 発行:小学館(2002年)

金剛寺の秘宝や境内図、修復前の多宝塔、その他多くの写真や解説によってその魅力をわかりやすく紹介。



『河内金剛寺の中世的世界』

著者:堀内和明 発行:和泉書院(2012年)

中世文書や建造物、仏像などを多く擁する河内長野市金剛寺について考察した研究書。



シリーズ河内長野の遺跡5『金剛寺遺跡』

発行:河内長野市教育委員会(2011年)

金剛寺の成り立ちから中世の様子、これまでの発掘調査で発見されたことなどを写真やイラストを使って解説。



慈尊院

『新・高野百景(其の式)』

著者:藤原重夫[画]／山口文章[文] 発行:教育評論社(2007年)

世界遺産、高野山の見どころを絵とエッセイで紹介するシリーズの第二弾。12~15ページで慈尊院を紹介。



『歩いて旅する熊野古道・高野・吉野』

著者:春野草結 発行:山と渓谷社(2015年)

112~119ページに町石道や慈尊院などを紹介、134~141ページに不動坂口女人堂から始まる女人道ハイキングコースも紹介されている。



『はじめての「高野七口と参詣道」入門』

著者:入谷和也 発行:セルバ出版(2019年)

高野七口と女人堂、女人道についての歴史や現状などを概説している。



『高野山を歩く(歩く旅シリーズ)』

発行:山と渓谷社大阪支局(2003年)

高野山巡礼のためのガイドブック。36ページに女人堂、80~85ページに女人道のコースが紹介されている。



『高野山宿坊の旅』

発行:咲出版社(2013年)

高野山の宿坊を楽しむための情報が満載。18~19ページに女人堂が紹介されている。



『歴史の旅 中世の高野山を歩く』

著者:山陰加春夫 発行:吉川弘文館(2014年)

空海開創以来の信仰と文化を、中世を中心に豊富な写真と地図を交えて、わかりやすく編修されている。



『高野への道 いにしへ人と歩く』

著者:村上保壽・山陰加春夫 発行:高野山出版社(2001年)

高野山へとつながる数多くの街道の成立と変遷を紹介。女人道と女人堂については12~17ページ参照。



INFORMATION

各自治体の観光案内所

【奈良】

宇陀市観光案内所うだ観処



室生寺へのアクセスや観光情報はここでお気軽に。各種パンフレットや電動アシスト付き自転車のレンタル、トイレも24時間使用できます。

住 所	奈良県宇陀市榛原萩原2427
電 話	0745-88-9049
ア クセス	近鉄大阪線榛原駅すぐ
時 間	9:00~17:00
定 休 日	年末年始

【和歌山】

高野地域世界遺産情報センター



道の駅「柿の郷くどやま」内にあり、来場者に「世界遺産の町・九度山町」と「高野山」の情報発信を行っています。

住 所	和歌山県伊都郡九度山町入郷5-5
電 話	0736-54-9966
ア クセス	南海高野線九度山駅から1km
時 間	9:00~18:30
定 休 日	1月1日~3日

MEMO

【大阪】

河内長野市観光案内所



金剛寺へのアクセスや観光情報など旅の相談ができるほか、事前予約すれば観光ボランティアガイドに案内してもらえます。

住 所	大阪府河内長野市長野町5-1-114
電 話	0721-55-0100
ア クセス	南海高野線河内長野駅すぐ
時 間	9:00~16:00
定 休 日	第2水曜日(祝日と重なる場合は翌日)、年末年始

【和歌山】

高野山観光情報センター



高野山の中央、金剛峯寺第2駐車場入口にあり、観光情報発信や歴史文化を紹介しています。

住 所	和歌山県伊都郡高野町大字高野山357
電 話	0736-56-2780
ア クセス	南海高野線高野山駅より 南海りんかんバスを利用、約20分
時 間	9:00~17:00
定 休 日	年末年始